

ポンビバイ里地里山再生の会／美唄市

報告者 高橋誠さん

私たちが活動している^{ポンビバイ}奔美唄地区は、美唄市北東部に位置しています。40年ほど前までは水田とクルミ畑が広がる集落でした。私の祖父もここで農業を営んでいて、子どものころ遊びに行き、農作業を手伝ったり、ため池で泳いだり、森を散策したりした思い出があります。とりわけ森で感じた独特の香りは、今でも忘れられません。

しかし祖父が亡くなってからの30年間で農地も森も荒れ果て、人が立ち入るのも困難な状態になってしまいました。この土地の贈与を受けて、3年前から農業を始めましたが、今はまだ土づくりの段階です。敷地にはクルミの木が何本か残っているほか、リンゴやブドウ栽培を始めています。

営農に留まらず、小さいころに味わった農地・山林体験を多くの人たち、とくに子どもたちに楽しんでもらえるような環境を作りたいと考え、この交付金事業に応募しました。一帯にはエゾシカやヒグマが生息し、農地の鳥獣被害が深刻化している地域でもあります。鳥獣をただ厄介者とみなすのではなく、共存共栄できる場所が中山間地のあるべき姿だと考え、森を豊かにする役割を私たちが担いたいと思っています。

活動面積は約5.5ヘクタールです。雑草木の刈り払い、倒木や枯木の除去、間伐（地域環境保全タイプ）、ウッドチップを活用した作業道づくり、間伐材を使った木炭・薪づくり、鳥獣害防止柵設置（森林機能強化タイプ）、地域内外の住民を対象にした里山観察会、炭焼き体験（教育・研修活動タイプ）といった事業実施計画を立て、実施しました。

作業道づくりでは、平坦なところには間伐材破碎チップを、斜面にはレンガくずを敷き詰め、電気柵を付設して隣接の農地へのシカなどの侵入を防止しました。ウッドチップパー、電気柵などを購入しました。

また観察会では、自生するミズナラのドングリ、ヤマグリ、オニグルミ、ヤマブドウ、コクワ、ラクヨウキノコなどを観察し、実際に採取して試食しました。

林内の刈り払いによって、人が森に入りやすくなりました。ドングリやヤマグリなどを採取しやすくなり、近隣住民が里山にきてもらえる環境になりました。農地のそばのヤブがなくなって、シカなどが接近しにくい環境になったと思います。

今後も、都市住民が身近に感じられるような里山環境づくりを続けていくつもりです。

